



「落ち穂拾い記」⑥ 六朝名碑・『高貞碑』

図①書風比較「高貞碑(右)・高慶碑(左)」



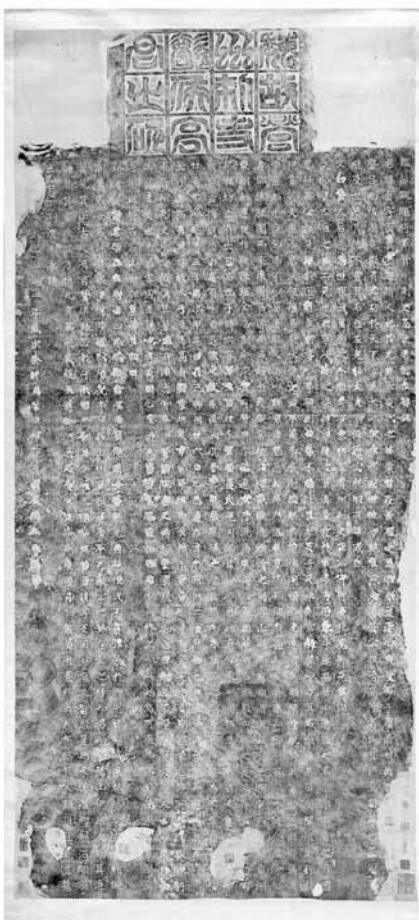
図②馬鳴寺根法師碑(部分)



図③「於王」二字の変遷



図④「高貞碑・初拓整本」(上田桑鳩旧藏本)



高貞碑とほぼ同じ地域から清末に高慶碑が発見されている。高慶碑は高貞碑より十数年古く、正始五年(508)の建碑であり、碑の大きさや様式も高貞碑と同じである。何よりも碑文の書風が非常に類似している。先人が指摘しているように両碑とも同一人の書とされている(図①)。しかし高慶碑は、碑文の破損が多く、手本としては、高貞碑に及ばない。前号でこの両碑は、背中合わせに石刻芸術博物館の外に置かれてあると記したが、当地博物館の友人に確認した所、現在は山東省博物館に移され、両碑とも保管されているが公開されていない。

高貞碑の隣りに置かれていた北魏時代の雄強な書風の馬鳴寺根法師碑(図②)も山東省博物館に移されているが、公開されている。高貞碑・高慶碑は、混乱時に縦に切断され、中央部分の碑文が多く失われたので、修復などがされているのである。高貞碑の拓本は、出会い機会が多いが、最高拓本は、八行目の「於王」の二字が完全な初拓本である(図③)。故・上田桑鳩(伊藤滋(書齋名・木鶲室))

書のひろば

理事長 下谷洋子

第59回高野山競書大会

審査会開催

審査会は5月29・30・31日と、前回に引き続き、東京高輪の高野山東京別院にて行われました。出品総数は約108000点、減少してはいますが学生一般とも多数の作品が集まりました。審査委員長には松井玉箒先生、副委員長に本院から種谷萬城先生、大会運営委員には千葉蒼玄先生、最終審査には本院から小竹石雲・種谷萬城先生と私が当りました。

上位賞は8月1～17日まで、総本山金剛峯寺別殿において展示され、続いて関東地区優秀作品の展示を8月29～31日まで高野山東京別院において開催されます。

この高野山競書大会は、金子鷗亭・飯島春敬先生に香川峰雲先生（第1回審査委員長）方が中心になって昭和41年から始められました。

学生部・一般部とも貴重な学びの機会として、本院会員の皆さんとのさらなるご協力をお願いします。

(公社)全日本書道連盟
令和7年度総会開催

6月5日(木)上野精養軒にて、令和

7年度の総会が開催されました。
議事・令和6年度事業報告ならびに、
決算と役員改選(本院関係ゴシック)
・その他

新役員は次の通りです。

新顧問 牛窪悟十・辻元大雲・眞

新参与 角元正燐・遠山白雲・堀

吉光・室井玄聰・柳澤朱

新理事長 中村伸夫

永盛蒼穹

下谷洋子

原志軒・福光幽石・藤江

陽子・水野澄菴・宮本博

志・山口啓山

駒崎流芳・鍋島稻子・日

賀野琢磨

吉澤鐵之(理事兼務)

新監事

新監督

課題など、実施状況とともに現場の生

の声が窺えました。詳細は後日の連盟会報にて報告されます。
今年は、講演会終了後久しぶりに懇親会が開かれました。

一般財団法人毎日書道会 令和7年度第2回理事会

6月16日(月)、KKRホテル東京にて今年度第2回理事会が開催されました。

1号議案 理事長及び専務理事の業務執行状況報告の件

2号議案 令和7年度毎日書道顕彰を1氏に贈る件

3号議案 令和7年度事業報告の件

その他 (第76回毎日書道展関係)

・毎日書道会 役員選任、委嘱の件

・大阪・関西万博の催事報告の件

・山林火災の被災に係る救済処置について

・右の議案の結果、第38回毎日書道顕彰に、本院理事坂本素雪先生が決定しました。昨年7月にセントラルミュージアム銀座で開催した個展が評価されました。(関連記事を52頁に掲載)

おめでとうございます。

☆任期満了に伴う評議員選任報告

新任 名越蒼竹

☆新しく委嘱された総務

千葉蒼玄

☆新しく委嘱された参事

小林琴水

(詳細は43頁の院報に掲載)

講師 世田谷区教育委員会事務局
事業推進担当課長 柄澤武志氏
同事業推進担当課指導主事 板垣純子氏
世田谷区立桜小学校王幹教諭
田中美奈子氏
コーディネーター 長野秀章氏
世田谷区内における書写の概要や書き始め指導について等を中心今後の

定時評議員会開催

6月7日(土)、東京文具共和会館にて定時評議員会が開かれ、令和6年度事業報告及び収支決算が原案通り承認可決されました。

続いて任期満了につき、評議員の改選が行われました。

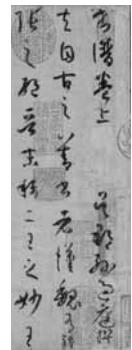
(詳細は43頁の院報に掲載)

☆なお、毎日書道会を退任する理事(赤平泰処先生)の補充のため、新しく理事に選任されたのは加藤裕先生でした。(書道関係者のみ)

漢字書基礎基本講座(14)

種谷萬城

書譜卷頭部分



草書2 書譜

「書譜」は、唐・孫過庭(646~694頃)

が書いた書論の草稿本。書の価値や学

書の法を、王羲之の書を規範として論

じている。

孫過庭は新旧の『唐書』に伝がなく、姓名、出身、官職も諸説がある。『書譜』は王羲之書法を信奉した孫過庭の正統な草書。用筆法に搖るぎがなく、変化に富み、格調が高い。筆画は鮮明で字数が多く、十七帖と並び草書の學習に適した古典。真跡本が台北の故宮博物院に現存。紙本で縦26.5×長さ900.8cmの巻子本。元来は、紙を継がずに一紙ごとに書かれた書譜は、「一紙の冒頭では折り目で区切られる」といわれるようになる。書譜の用紙は表面が山形になるよう折り目を付した「綻簾紙」で、一紙の冒頭では折れ目の間に文字がおとなしく収まっているが、後半になって気分が高揚し書風も陰絶になってくると、紙の折れ目に筆が当たり、竹の節のような形状を呈する文字が出来てくる。これを「節筆」という。孫過庭はこれを意識的に用い書譜独自の魅力的な様式を作り上げた。



書譜「神融筆暢」



書譜の倣書「颯爽流刺」



※ユーチュープ「筆のサロン」に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。



筆のサロン
QRコード

篆刻・刻字基礎基本講座(14)

後藤大峰

刻字作品を創る上で、最も重要な用具と言いますか、是非とも必要なのが、作品そのものである木の板です。

木材の種類には、大きく分類致しまして、「針葉樹」と「広葉樹」があります。

針葉樹は、よく、建築材に用いられる「杉、松、檜」などです。広葉樹は「桜、楓」などです。

刻字作品によく使用するのは、加工のしやすい広葉樹で、代表的なのが「桂」です。桂は家具用材として、よく用いられ、木材加工に慣れてない方でも加工しやすい材質の木材です。

その他、同じ広葉樹で、「銀杏、桜」なども使用致します。
また、木材には、年輪からの切り出しの方向の違いで生じる、「柾目材」と「板目材」があります。どちらも材質的に変わりませんが、「木目」を生かす作品を創る際は板目材が適しています。筆者は矢張り桂材を使用致します。

ただ、桂材は現在、中々、求めにくく、手に入れるのが困難な状態です。これらの木材に変わるものとして、以前からですが、使用されているのが「石膏ボード」です。

これは、以前より建築材としても、世に出ていますが、文字通り石膏を主材料にして、ボードに加工したものですが、やや、「角持ち」が木材よりは悪いので、その辺が欠点です。画像は「桂材」です。



桂材（上が板目材、下が柾目材）

次回は加工に使用する、刃物、「ノミ、彫刻刀」等について述べたいと思います。

書道芸術院 令和の群像 (2025)

縁
えにし



塩澤美紅（福島）

千枝子
塩澤
美紅

第78回書道芸術院展「梅の花散らまく」

私が書道を今まで続けてこられたこと、そして「かな」を大好きになつたのは、〇様との出会いからたくさんの方々との出会いという「縁」があつてのことだと思います。始まりは、子育てが一段落した頃、筆文字で挨拶状・礼状を書く機会が多くなり、私の悪筆では失礼になるとの思いから、書道教室に通いはじめたことです。

お稽古は思いの外静かで、墨の香りが心地良く集中して筆を動かすことに夢中になりました時間が過ぎるのを忘れるほどでした。

だんだんと文字が上手になってきて、嬉しくなりはじめた時、主人の転勤でその書

教室に通い続けることが難しく、新しい教室を探していたところ、〇様から故・加藤紅樹先生を紹介して頂き、先生の教室へ通うこととなりました。

先生の「かな」は艶のあるとても素敵なものや素敵な出会いをたくさん経験して見込みました。先生は常々、美しい文字でし下さいに私も「かな」の魅力に引き込まれていきました。

先生は常に、豊かな感性が身に付くのよ、と教えて下さいました。

また、先生主催で故・永井幸子先生の鍊成会へ出席する機会に恵まれた際、どうしても書けない文字があり、悔しい思いをしていました。

ながらなんとか、永井先生の及第点を頂けた時の嬉しかったこと、「かな」の真髄のご指導を頂き、さらに邁進していくと決意したのを今でもはっきり覚えています。

私が、今日ここにあるのは、沢山の「縁」に恵まれたことだと思います。

書道芸術院の下谷洋子先生はじめ諸先生、玉松会の石井明子先生はじめ諸先生方にたくさんご指導を頂き、良き書友の方々に見守られ、支えられ、助けられて、ここまでこられたと心から感謝しております。

家族の協力に感謝しつつ、お稽古は通われていく方々と魅力ある「かな」を行きたいと思います。

道教室に通い続けることが難しく、新しい教室を探していたところ、〇様から故・加藤紅樹先生を紹介して頂き、先生の教室へ通うこととなりました。

先生の「かな」は艶のあるとても素敵なものや素敵な出会いをたくさん経験して見込みました。先生は常々、美しい文字でし下さいに私も「かな」の魅力に引き込まれていきました。

先生は常に、豊かな感性が身に付くのよ、と教えて下さいました。

また、先生主催で故・永井幸子先生の鍊成会へ出席する機会に恵まれた際、どうし

ても書けない文字があり、悔しい思いをしていました。

ながらなんとか、永井先生の及第点を頂けた時の嬉しかったこと、「かな」の真髄のご指導を頂き、さらに邁進していくと決意したのを今でもはっきり覚えています。

私が、今日ここにあるのは、沢山の「縁」に恵まれたことだと思います。

書道芸術院の下谷洋子先生はじめ諸先生、玉松会の石井明子先生はじめ諸先生方にた

くさんご指導を頂き、良き書友の方々に見守られ、支えられ、助けられて、ここまでこられたと心から感謝しております。

家族の協力に感謝しつつ、お稽古は通われていく方々と魅力ある「かな」を行きたいと思

こうして、手習いで始めたお稽古の「習字」から作品で自己表現する「書道」になり、早40年になろうとしています。

私は「かな」の作品を考える時、テーマを探し構成に思いを巡らせ、要である文字を探ります。特に文字については、かな古典から合う文字を探しますが、墨継ぎ・かずれ・逆筆を拡大鏡を出して見るため、とても時間がかかります。そうして見つけた文字は時間をかけて臨書し、作品に仕上げて行きます。

このように作品を作りあげるたび、加藤先生との縁を結んで下さった〇様を思い出します。〇様は何事にも一生懸命に目標へ向き合われている方で、その姿に私はひどく感動し、物事に一生懸命に取り組む大切さ、目標に向かって頑張る先に結果がきちんとついて来ることを知り、私も〇様を見習い納得する作品になるまで、頑張って筆を持ち続けています。

私が、今日ここにあるのは、沢山の「縁」に恵まれたことだと思います。

書道芸術院の下谷洋子先生はじめ諸先生、玉松会の石井明子先生はじめ諸先生方にたくさんご指導を頂き、良き書友の方々に見守られ、支えられ、助けられて、ここまでこられたと心から感謝しております。

家族の協力に感謝しつつ、お稽古は通われていく方々と魅力ある「かな」を行きたいと思

令和7年度 新審査会員作品

伊藤 草鈴（達）・菅原 淑花（か）・藤野 江雪（達）・岡本 要翠（現）

伊藤草鈴
(高知)

「得失還空」



菅原 淑花
(宮城)

「あらたまの」

この度は審査会員にご推挙いただき誠にありがとうございます。下谷洋子先生の熱心なご指導と書泉会・宮城野書人会の先生方に心より感謝申し上げます。

作品は「新勅撰集」からの歌です。古の歌人は現代に生きる私達に情感を呼び起こし感動を与えます。歌意を大切にし、これからも真摯に学び精進して参りたいと思います。

(淑花)



藤野江雪
(群馬)

「始平公造像記」



岡本要翠
(岡山)

「故郷の山(正岡子規句)」

ふるさとの山々が眼前に浮かぶ明るいこの句が好きです。地元にて、若田文邑先生のもとで学び、数年前より小竹石雲先生にご指導頂いております。お二人の先生のお陰で今日があります。

書は私の人生を真に豊かにしてくれます。今後もご指導を仰ぎながら精進して参りたい所存です。有難うございます。

(要翠)

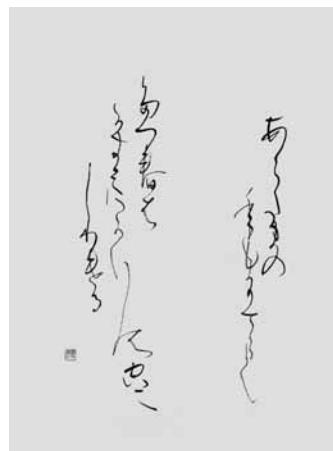


岡本要翠
(現)

この度は、審査会員にご推挙頂き、誠にありがとうございます。

長年、書と向き合ってこちらの西林乘宣先生はじめ、お陰と心より感謝申し上げました。これからも、自己研鑽を重ねて参りたいと思います。この作品は、点画を特に鋭く、始筆終筆に注意して重厚な線質を目指し臨書してみました。

(江雪)



菅原 淑花
(宮城)

「あらたまの」

この度は審査会員にご推挙いただき誠にありがとうございます。下谷洋子先生の熱心なご指導と書泉会・宮城野書人会の先生方に心より感謝申し上げます。

作品は「新勅撰集」からの歌です。古の歌人は現代に生きる私達に情感を呼び起こし感動を与えます。歌意を大切にし、これからも真摯に学び精進して参りたいと思います。

(淑花)



(要翠)

張遷碑（後漢・186年）①

君諱遷字公方。陳留已吾人也。君之先出自有
（解説）この碑は明初に山東省で出土し、その後、州学から岱廟に移され、ほかの17の碑石とともに保存されている。碑文は16行、42字。全文で566字となる。当時、穀城長として治績を挙げた張遷が蕩陰令へ転任するにあたり、吏民が彼の徳を称えて建てた頌徳碑（より正確に言えば、去思碑）である。没後に建

てられたものではない。文字の形は扁平または方形。上部が大きく重心を低くする字が多く、どっしりとした安定感がある。なお、拓本に見づらい部分があり、字典で調べる必要がある。参考までに「諱」「先」を別の拓本から掲出した。

（編集部）



※掲載図版80%に縮小、行立てについては変更しています。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙以内も可 (A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

(半便紙普通判(料紙可)・縦長に使用) 別紙を裁断して貼付も可。
半便紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部

分より歌一首以上を書く。(全幅も可)
A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B. 小品の部=半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。△

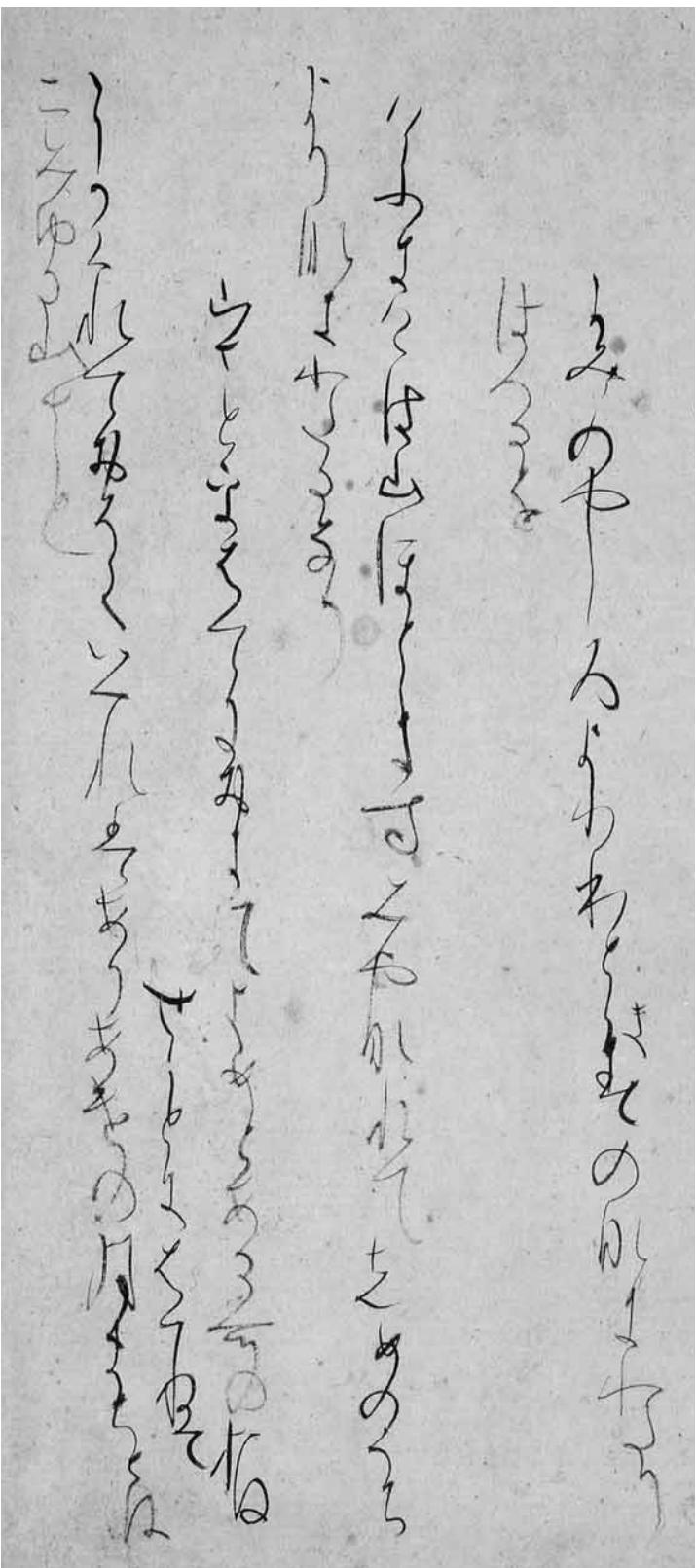
〈解説〉「針切」はもともと冊子本と推定されているが、「源重之の子の僧の集」と「相模集」を書写した断簡が残されている。筆者は「寺」という人であるが、どんな人なのか全くわかつていない。同筆の遺品は存在せず、11世紀末から12世紀初頭の書写と考えられるのみである。

細かい文字を直線的な鋭い線で、リズミカルかつ流麗に一気に書いている。針でひっかいたような感じがするからか、あるいは針の山に磁石を置

いて引き上げた時のような直線の連続をイメージするためか、古来、針切と呼ばれている。いずれにせよ、細い線でスピードを保つて臨書する必要があるだろう。

今月と来月は『子の僧の集』を課題とした。転折での穂先の突き込みが大切である。イタチなどの硬めの毛質の面相筆を使用すると、この線は出しやすいようである。

(編集部)



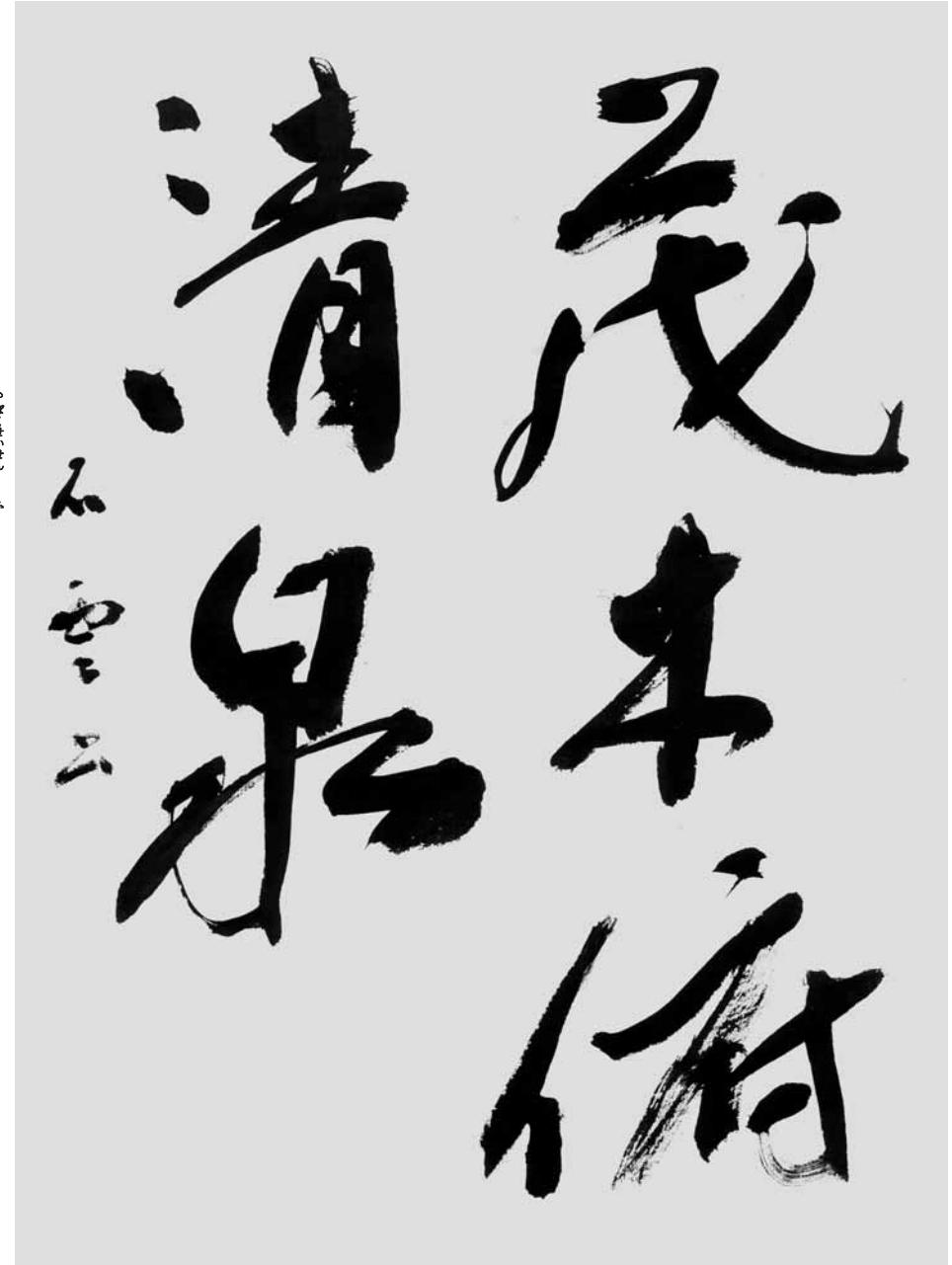
※掲載図版原寸

よみかみのやしろよりほとゝぎすのなきわたりはべるをけふきけば山ほとゝぎすみやなれしめのうちよりなきわたるなり山ざとをはてにおきて
よめとある所のわほせごにはべればこれがくれておそいづればありあけの月まちどほにみゆる山ざと

小竹石雲
（葉適）

茂木俯清泉
（茂木清泉に俯す）

茂れる夏の木立が清き泉に影を
浸している。



書体＝自由



（参考）

構えを大きくとり安定感のいい
字形で伸びやかな表現を心がけた。
斜画方向性に変化をもたらすこと
で一層伸びやかさを増すことがで
きた。「木」「俯」は重心を下げ安
定感を、他の字は重心をやや上げ
ることで動きに配慮した。安定
と動きの調和で全体をまとめてみ
た。参考例は上記をやや発展させ
るため、文字の大小、強弱を加味
したり草書を交えたりしてみた。

前田龍雲

公平無私
(韓詩外伝)

物事に対して私的な感情や利益を交えない様子。つまり私利私欲、不正や隠しごとがなく、態度や言動が正しく、感情に左右されず堂々としていて、物事の全体像を見渡したうえで、誰に対しても行動や判断などが公平なことを表す。

会の運営や展覧会審査など常に公平な立場で臨まなければならぬとの思いで撰文した。

屈強な結体の墓誌銘の楷書筆法を参考に書いてみた。隋代の墓誌銘は、北魏末を踏襲するものが多いため、その中でも蘇孝慈墓誌銘は明快な筆遣いと端正な字形で、歐陽詢・虞世南の書の先駆けをなすといわれている。
起筆は鋭く波法は伸びやかに。「無」の縦横画はなるべく等間隔かつ若干の変化を持たせるよう心がけた。

公平無私 よみ(公平無私)

書体=楷書

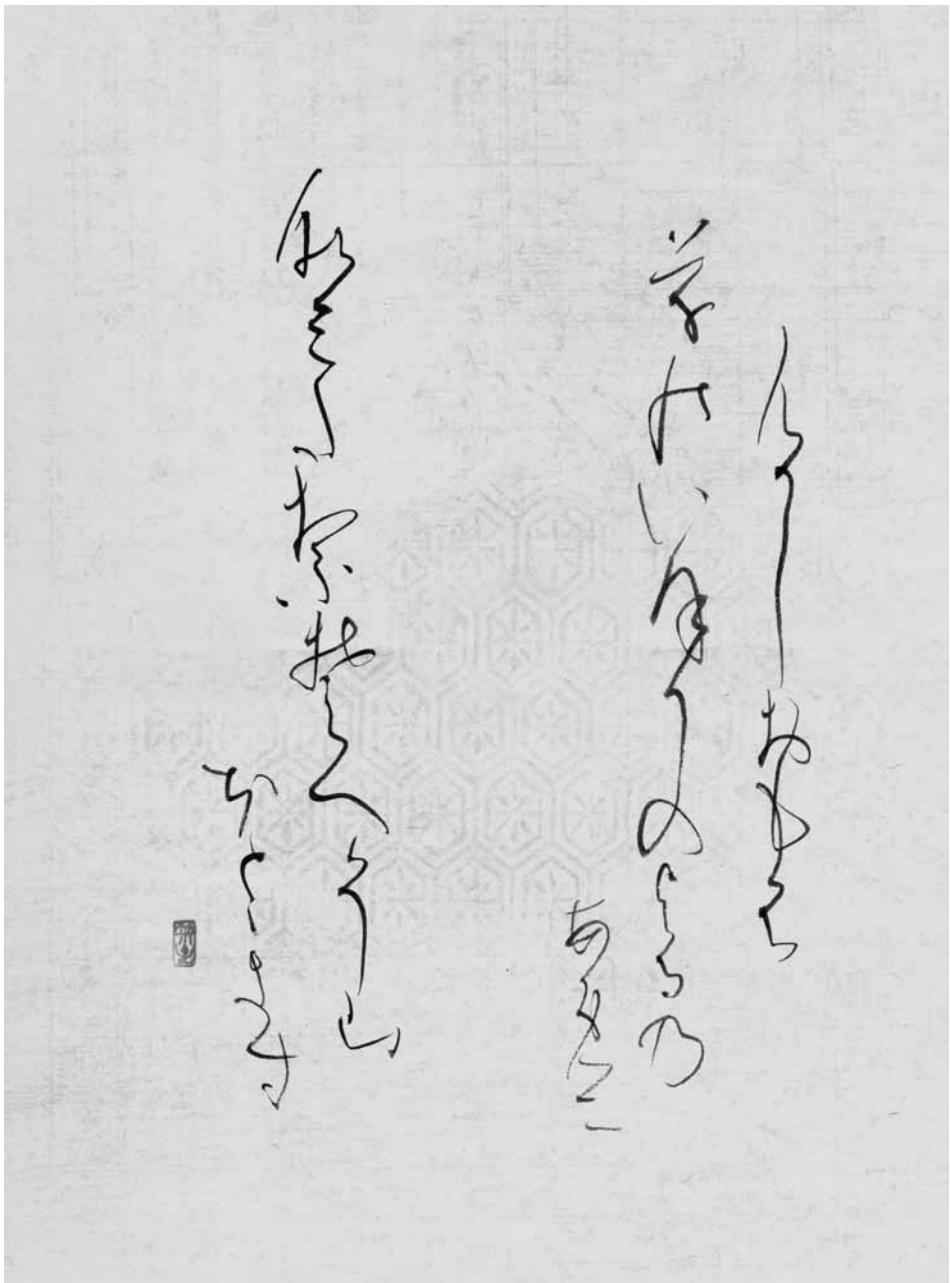


下谷洋子

むかし思ふ草庵の夜の雨に
涙な添へそ山郭公

(藤原俊成「新古今集」)

昔の優雅な暮らしを思いだして寂しくしているわび住いに雨が降っている。山郭公よ、さらに悲しい鳴き声で私に涙の雨を降らさないでほしい。



今回の形式は、縦半紙作品としては基本的なものですが、後半で前半より字粒を変えてやや強く書き、山場としました。3行目が小さく弱くなると作品全体が貧相になりますから注意しましょう。強く書くということは、ただ文字が大きくなるだけでなく、筆圧の浮沈が関係してきます。小字のかなは種先だけで均一に書く方が多いですが、古筆の線の太細をよく自習して、どのくらい筆圧をかけたらバランスがよいのかを掴んで下さい。

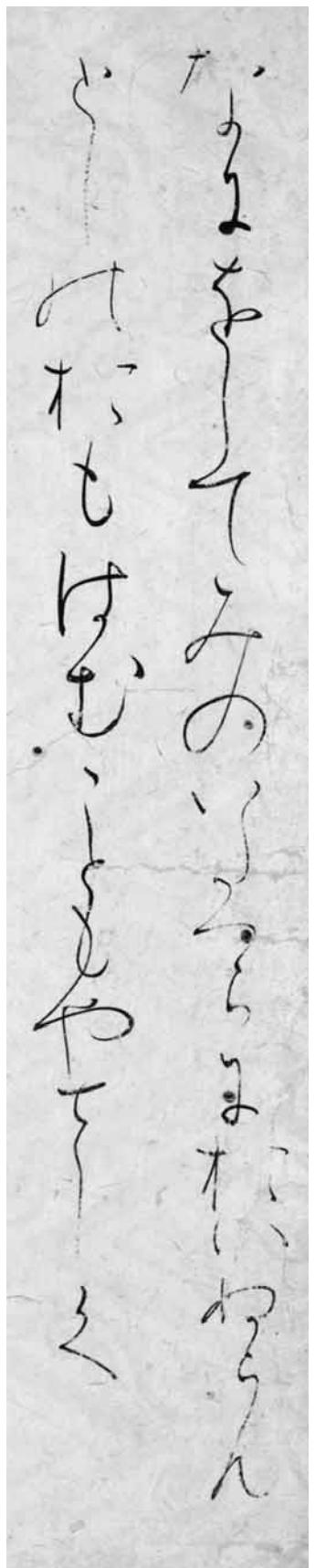
文字の形や連綿の方向によって、行が揺れているように見えると思いません。張り出す文字や画によつて、行の外側にある空気が動くと表情が豊かになります。墨継ぎは那です。

よみ方 む(无)か(可)し思(おも)ふ(不)草の(能)庵(い保り)の夜(与る)の(乃)雨(あ免)に(1)
涙(那)多(多)な(奈)添(楚)へそ(曾)山郭公(本と)支寸)

*料紙は半紙版(33×24.5cm)を使用しましょう。半纏紙は上記のサイズに切って下さい。

かな規定 秀級以下【8月15日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



よみ方 なにをしてみのいたづらにおいぬらむ
としのおもはむことやさしく

歌意 いつたい何をしたために、自分自身がこんなに空しく老いてしまっているのでしょうか。長年、連れ添ってきた「年」が今の私の姿を見てどう思うか、それがつらいのです。

かな条幅規定【8月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

見越雪枝選書

習い方解説 (1)

見 越 雪 枝

聞かずともいのいを瀬にせむ時鳥
山田の原の杉の群立ち

(西行)



よみ方 聞か(可)ず(春)とも(毛)いこ(人)を(越)瀬(せ)に(い)せ(勢)む(无)時鳥

山(や万)田(多)の(能)原(者)の杉の(農)群立(多)ち(知)

*タテ形式に限る

創作

まだ鳴き声は聞いていないが、それでもここを時鳥を聞く場にしよう。伊勢神宮外宮の山田の原は神杉が群立しているから、の意。行間の搖れを意識して広狭をとりました。書き始めに漢字を入れため2行目のやは平がなですっきりとしました。墨継ぎは杉です。

漢字条幅規定 初段以上 【8月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (1)

名 越 蒼 竹

字の連綿をほとんど用いないで、直線を多く使いながらその方向と長さの違いによって字形を変化させた書き方を試みました。行草作品の妙味は行の流れを工夫することにあると思います。一文字ずつ安定した形で書くとそれができないため、まずは一文字としては不安定な形づくりをし、その不安定さを下の字が補うことです。

※タテ形式に限る



雨轉南山逗晚暉 閑和燕子出荊扉
(趙執信)
(雨は南山に転じて晚暉逗まり 閑かに燕子と荊扉を出づ)

漢字条幅規定 秀級以下 【8月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

習い方解説 (1)

種 谷 萬 城



遠水兼天淨
(杜甫)
(遠水は天を兼ねて淨し)

書体=自由

今月は、杜甫の詩「野望」の句で、意味は「遠くの川は、遙か彼方で天と一つになって清く流れる」です。龍門造像記の書風で倣書しました。点画が角張り、豪快で、迫力があり、魅力的な楷書の古典です。本誌に連載中の「漢字書基礎基本講座(4)」と関連動画を参考に、原本を鑑賞・臨書して、気迫溢れる書法を学んで下さい。

萬 城 書

（杜甫）

遠水兼天淨

（遠水は天を兼ねて淨し）

習い方解説 (1)

鈴木英晴

出湯の窓に夜霧来て
せせらぎに寝る山宿に
一夜を憩う 山男
星を仰ぎて明日を待つ
「坊がつる讃歌」より 英晴書

九州本土の最高峰を有する九重連山の、
峰々に囲まれた坊がつる湿原。その一角の
法華院の温泉には「坊がつる讃歌」が流れ
て登山者の疲れを癒してくれます。その情
景を歌った一節を書いてみました。芹洋子
が歌う「坊がつる讃歌」は、NHKの「み
んなのうた」で放映され、登山者でなくと
も、多くの方に口ずさまれるようになりま
した。もともとは広島高等師範学校山岳部
に歌い継がれていたものだったようです。
書類は楷書で書くことが求められます。
漢字は虞世南の孔子廟堂碑をイメージする
と、かなとの調和がとりやすいと思います。
それぞれの文字のもつ特徴を生かしながら
全体のバランスを考えて書いてみました。

出湯の窓に夜霧来て
せせらぎに寝る山宿に
一夜を憩う 山男
星を仰ぎて明日を待つ
「坊がつる讃歌」より ○○書

書体=自由

- ◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
- ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

〔注意〕

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

署中お伺い申上
今朝は朝顔がたくさん
花をつけました。
近いうちに泊りがけで
いらっしゃいますから
つまむお詫びあります。

八月三日 鈴木せつ子

暑中お伺い申し上げます／今朝は朝顔がたくさん／花をつけました／近いうちに泊りがけで
いらっしゃいませんか／つまむお詫びありますので／八月三日／氏名

書体＝自由

(掲載手本85%に縮小)

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を
- ◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品。各部総評

NO.769



かな条幅部 準師 猿渡 豊右
柔らかい線でバランスよく綴り
品がよい。渴筆が少々足りなかっ
たが、手本をよく理解している。

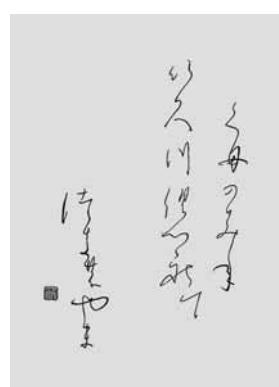
◎かな条幅部総評 全体に墨量の
変化に乏しい作が多かった。横形
式は掠れにないので工夫したい。手
と年の草書の区別を！（洋子評）

かな部 師範 片桐 桃代
文字の基本の形を日頃から勉強
していることが伺えます。洗練され
た運筆のリズム感に品格があります。
◎かな部総評 文字数が少ない俳
句ながら文字に大小を付けて行間
字間を考えしながら散らしの構成
が巧みな作が多く脱帽。（峰子評）



漢字条幅部 師範 加瀬明日夏
鄧石如を連想する正統な小篆。
用筆、結体、章法とともに着実。堂々
たる風格は日頃の鍛錬の成果。

◎漢字条幅部総評 上級は変化に
富んだ行草書作品が多見されたが、
篆隸楷書作品にも古典に習熟した
優れた作が見られた。（萬城評）



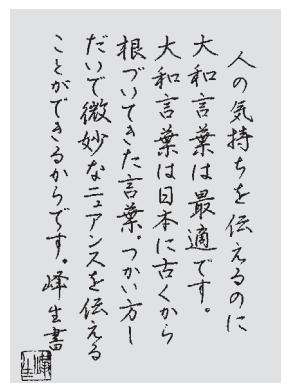
現代詩文書部 特選 木村 聰美
同じ字の造形の変化の妙。題材
を生かす表情豊かな線質とたくみ
な構成が生彩感を与えていた。
◎現代詩文書部総評 線の流れ、
動き、間合いなどポイントを考え
て自分らしい表現を。（掃雪評）



漢字部 師範 大島 竹鳳
一杯の空気を孕み大空を悠然と
舞う姿は爽快で、見るものを魅了
する。力感溢れる運筆に脱帽。
◎漢字部総評 書作にあたっては
適度な緊張と余裕のバランスが難
しい。そのためには多書し自信を
つけるしかない。（石雲評）



前衛書部 特選 高山 琢翠
線の開閉運動と、適度の揺れた
線が響き合い、独創的で明るい作
品となった。構成が絶妙。
◎前衛書部総評 作者の思いが伝
わる創意工夫された作品を拝見し
たが基本線を忘れずに。（蓮紅評）



ペン字部 師範 松山 峰生
豊かな筆勢と美しい字形が魅力。
温雅な流れと全体の調和のよさで
立体感あふれる作となった。
◎ペン字部総評 紙面いっぱいに
広がりすぎた作品散見。天地左右
の余白をきちんと取ることで文字
の大きさが決まります。（季子評）

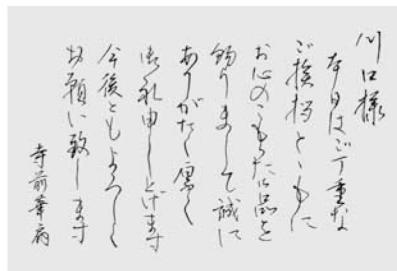
実用書優秀作品

選評 下 谷 洋 子

◎実用書部総評

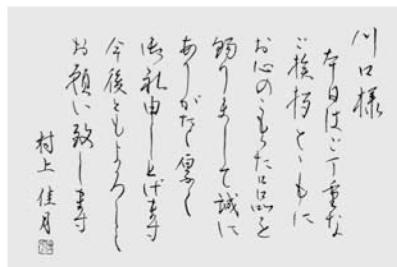
難しい課題かと思いましたが、佳作が多かった。平がなをやや小さめに、太小をつけてリズムに乗りたい。漢字もメリハリがあると生彩感が生まれる。

(洋子評)



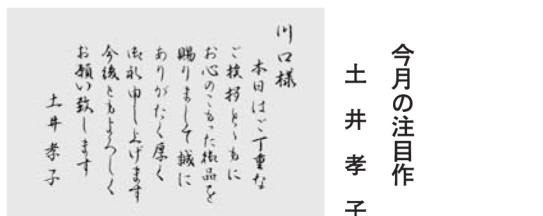
特選 寺前華扇

運筆自然でバランスよく自分のリズムにしている。特に連綿が美しい。



月佳上村特選

穏やかで明るく隅々まで配慮された佳品。安定したリズムが白眉。



今月の注目作

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



音楊昌和史
羽風子江
菜涌圓
友香里
加奈子
選評 太田蓮紅

理扇
濃墨の滲みと情感溢れる
大胆な構成と筆致の発想
力強い線に若さが溢れる

淑子
華子
舟子
大根
モダンで洒脱リズムあり
濃墨の滲みと線の流れが美しい
柔らかな淡墨の表情豊か
大胆な構成濃墨大小妙味

如雲
香一
蘭燁
カ
「影」が効果的に線を
濃墨の独特のタッチ見事
潤渴・行間の処理爽快
細線の切れが刀意を感じる

泰子
華子
華子
大根
モダンで洒脱リズムあり
濃墨の滲みと線の流れが美しい
柔らかな淡墨の表情豊か
大胆な構成濃墨大小妙味

芳子
舟子
峰
峰
モダンで洒脱リズムあり
濃墨の滲みと線の流れが美しい
柔らかな淡墨の表情豊か
大胆な構成濃墨大小妙味

素朴
香夏
花仙
峰
最初の3字と小字が響く
淡墨の滲みと構成の妙味
大胆なタッチ躍动感あり
潤渴と線の練度趣きあり

杏邑
楓翠
溪美
選評 山崎掃雪

喜代美
最初の3字と小字が響く
淡墨の滲みと構成の妙味
大胆なタッチ躍动感あり
潤渴と線の練度趣きあり

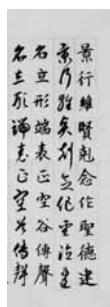
今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 北村白琉 白石和楓

臨書 (紅瑠) 原島春汀 「智永真草千字文」

部分拡大



原島春汀臨

35×135cm

◆楷書、草書とともに着実に原帖の良さを表現した完成度の高い臨書です。細字作品制作に習熟した技量の高さが窺えます。日頃の練習の賜物です。(萬城評)

前衛書 (大拙)
佐藤陽子
「春望」



136×35cm

◆潤いのある墨の塊と動きのあるシャープな線、余白を生かした構成が魅力的な作。下部はもっと渴筆の効いた軽やかな線の方が良かったかと思う。(白琉評)

漢字 (創珠)
阿部珠翠
「七言二句」



135×35cm

◆潤渴の変化が巧妙。筆法に無理がなく自然でありながら、遅速の変化が絶妙。線が上質で見所が多い。熟練の技が多く見られる作品です。(萬城評)

阿部珠翠書

伊藤有津書

(和楓評)



68×35cm

◆豊かな線質で、潤渴・大小と漢字かなのバランスがとても良い。無理のない二段構成が見事に決まり、作者の心情が筆線に表現された魅力溢れる佳作。

小品の部

現代詩文書 (青蓮)
伊藤有津
「敏典のうた」



小品の部

上宗	も華京八八澄も四	「蒼	声秀	翠	水翠柳	伊	「か	「漢字」	（創作の部）
泉苑な	「かく祥橋街春ぐ谷	「漢	前苑松	植	茎柳	呂	な	前衛	11点
早茂	岡加豊十相土西佐	「臨原刻香	「現	四宗植	加藤	齊藤	か	漢字	20点
部木	部藤嶋河菜屋川藤	「字書	「衛	「水	「高岡	濱嶋	か	前衛	4点
絢	絢雅勝景翔仙象子	「篆	「若奥白梅詩	「翠	「秀	久杏	か	漢字	10点
朗水	春天惠藤詠	「篆	「見川井田	「紫翠	「紫	幸昌	か	前衛	14点
	瓊芳勝景翔仙象子	「篆	「櫻聲初	「翠	「久	杏昌	か	漢字	14点
		「篆	「苑麗真紅	「翠	「幸	昌	か	前衛	14点
		「篆	「柚流理雨	「翠	「昌	昌	か	漢字	14点

総出品点数
98点

（特選候補者）

漢字研究部
(真草千字文)

選評 川 島 舟 錦

今月のホープ作品



伊藤二千翔

漢字研究部 特選 伊藤二千翔
4文字を実にうまくまとめました。伸びやか、かつ深い線質で、ゆったりとした構えの立派な臨書作品になりました。落款の入れ方も慣れており見事です。
「川」の3画目から「流」の一画目の虚画が絶妙です。「不息」は、そのまま作品になります。うです。「不息」は、そのまま作品になります。
◎漢字研究部 総評
1000点を超える作品を審査し、写真版の作品にまでたどり着いた時、どの作品もよく特徴

を捉えて練習を重ねているなあと実感します。今回、次点の作品と、どちらをホープ作品にするか、かなり迷ってしまいました。シャープな線質で千字文を表現できること、小筆を使いこなすこと、すべて鍛錬を積み重ねた結果です。
『臨書を通して、作品つくりにつなげられること』を考えるきっかけになれればと思いません。気脈やリズムを感じられることも大切な要素です。



藍和幸 洋白 昭
水江子子 杜華

輝翠俊里瑞智
峰照吾佳華子

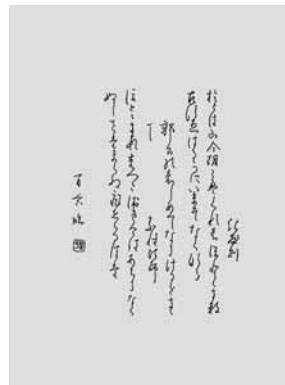
麗麻裕紅良英
流矢子霞章樹

光真小和恭友香
燁理樹美子

かな研究部 (元永本古今集)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



高木百合子

かな研究部 総評

元永本の中でも均整のとれた美しい書体で表現された部分を落ち着いた筆致で臨書できました。霧開氣をこわすことなくリズミカルに見事に書けています。

◎かな研究部 総評

かなの連綿の中に漢字が美しく配置され、書く側の力量が試される古筆です。一行一行緊張感をもつて書き進めて下さい。大きさは原寸が良いでしょ。



京美明日
子梢夏

祐和英
香子晴

和耶美代
美衣子

佳竹恵
恵鈴子

わ高静わ大も紅瑠
か真翠か雲く瑠秀
印岩井伊磯青藍澤作
東上上藤貝木澤
正都智幸清藤白瑠
芳子美子耀達珠
常盤佳
秋富作
殉子

蕙黎清石書竹上千上こ蓮水竹大正藍清伊書玉紅桜青葉紅書
明月習泉美泉葉泉だ紅茎扇雲華月呂泉松風草月瑠
坂飯飯松永横柏猪早本清瀬鶯加石境鈴七田松苗新熊五
本島丸井山谷又部松田水尾山瀬井野木五中津代谷井
トトト愛伯蘭和理美蘭京美日祐和英和美和耶代佳竹
里琴ミ青高あた中高も常祥澄高墨正秀高福紅墨常秀光蒼静墨秀附こ青た
蘭だ蓮崎かか川真く盤紫春崎縁韻華蓮崎山風縁瑠盤畝陽翠花畝中こ蓮か
芳こ青高あた中高も常祥澄高墨正秀高福紅墨常秀光蒼静墨秀附こ青た
蘭だ蓮崎かか川真く盤紫春崎縁韻華蓮崎山風縁瑠盤畝陽翠花畝中こ蓮か
渡吉山矢本本三松本藤深原林林沼二德田武須水椎櫻込小小小金加小梅
通野崎口吉柳田尾郷本田堀田通永畠田田名舟池城藤野津佳
信桜登明小喜希谷尚雅清裕洋奈美奎麗裕美宗香惠光龍美智直智翠朱代
溪佳惠江香毫舟子恵章子洗子子子子子楓舟風子貞伸紀子子子陽星子

一松唯清
心村一月入
秋青遙相
葉木沢川
ミ玉京
エ枝一子

玉幸昭明椿清も一八墨梓澄上も上京上千や有
川扇韻香翠月く弦街宣江春泉く泉橋葉ま秋
渡山山矢安森森村村三真松深萩西中豊塚玉田武竹淹高高須白坂権紹北北北菊金片小櫻上白猪井伊石池浅
邊本縣部島田上上浦庭永澤原川村島本沢玉山澤澤山橋藤田石本代野村田爪嶋地谷山野田横井股上上東森川田井
眞奈美タクシチレ
颶梅令香砂都脇佳小ヶ珠佳洋藤ヶえ幸哲花恒尋幸萩陸倫素雪遊志鼓薺夷咲夷美和真綾白清英京博津幸和
留香子苑子恵谷恒月樹ミル月子象子勝子子子源子子苑雨子和朴華子祥湖水輝風代子美乃慧泉二子子江

映竹A正う八八殊玉富蒼
春竹高大奥一泰華竜蒼竹附一青玉竹上誘森明玄
紅原I華る生雲韻川貴風汀美崎阪田心香祥泉陽原中弦湖川扇泉韻地漢穹
華鼎翠刃翠だ春閃塚扇祥街瑞我明書和朋華明
菅代清柴篠篠七佐佐佐佐櫻小小小小小吳熊久國工川川河叶加片小尾大大大大大遠梅宇伊今井板石石池井安安ア浅秋
野田水田原田條藤藤々木々々田峰林林坂木泉井根峰元崎上岡野納桐澤形菱澤橋島沢藤原井与木上垣渡閔田口藤藤部野葉
由惠由木木美曾首帆か
映葉紀洋楊美裕美綾芳蒼淳和智加荻溪素泰豊宏登琴和茱乃お星洋順桃和紅る
紅子子流子美子奈子風子舟子江姫子香潤美子重翠香仙佳り扇子子代子霞なり理子子染翠麗泉蘭観鳳徑月香助風悠子彩奈

還声明東華無祥華玉幕華上祥一生玉大高椿正佑一麗一姫祥上纏一水天
還泉香漢伯仙門紫仙川明張仙泉紫閃大雲真翠華朋弦か澤心路紫泉縷草茎璋澤汀月局会穹精真田く川松高張和祥茎川祥貴
130渡吉米吉山山山御御松前本松藤藤藤廣平平原早浜長錦西成長長中中中中富渡德寺辻千千武瀧高高高高高高高高
名邊倉田本本中田園園田島川多木原本澤井瀬山野坂野谷織川田沼島村野里江田子江前葉田井口村原橋橋藤木岡根田原
千生登か川あ久美み
名信聲鶴真美清芳綾翠瑛和悦瑩喜紗花幸つ祐聖永さ美春佐満一柳星よ瑠紀淳華洋陽白のみ藤貞美信賢松昭秀代祥昌
略代香子紀楓玉京仙鶴香舟仙枝子子恵子香枝子凜子朋翠翠子子子美琴明子子翠子子扇子子香江子舜子乃雲美華汀子風子

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字32点・かな12点)

選評 小竹石雲・平川峰子

漢字秀逸作



神谷 雲卿



大内 炎軒

〔次点・50音順〕



北嶋 蒼湖

安定した運筆と、紙面の収め方には
師範としての余裕と貫禄を感じます。
そして熟知された用筆から静かに語り
かけてくるような気品が窺われます。
(石雲評)

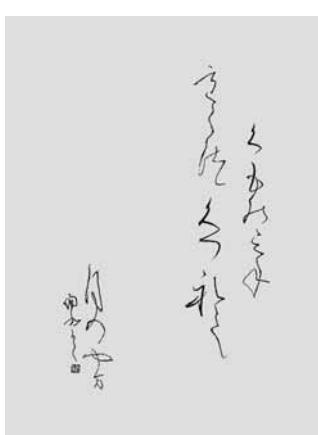
かな秀逸作



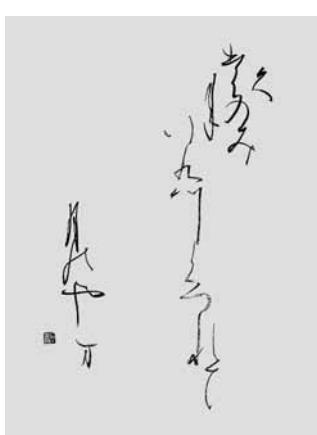
西川 藤象



奥村 美楓

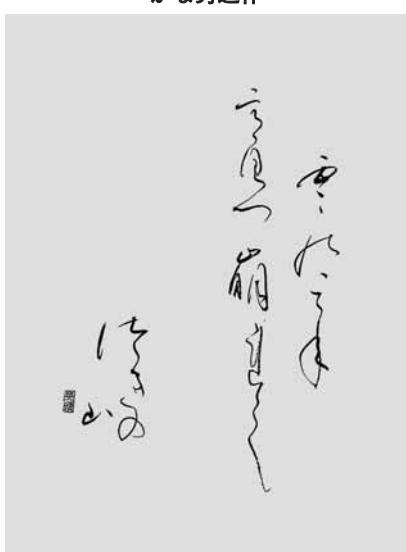


茂木 純水



佐藤 一義

鈴木英晴



のびやかな縦の線に変化をつけながらのリズムに響きを感じます。文字の大小と連綿に工夫が見え自然な雰囲気を出しながら品格の高い作品に仕上がっています。
(峰子評)

漢字部

第二種

◇創作・楷書

かな部

第二種

◇創作（和歌）

來人忘新
術去子惑
故蹊

○○書

來人忘新術
（來人新術を忘れ去子惑に）
（去子惑に故蹊に）

（謝靈運）

漢字部

第二種

◇創作・行書

密竹使徑迷（密竹徑に迷わしむ）

（謝靈運）

密竹使
徑迷

○書

天つ星道も宿りもありながら空に浮きてお思はゆるかな
よみ方 天つ星(ぼし)道(の)邊(い)も宿(やど)りも(そ)あり(利)な(那)が(可)な(奈)
ら空に浮(有)き(支)ても思(おも)は(本)るか(可)な(奈)

(菅原道真)

◇秋の特別昇段級試験の課題手本
(創作作品)を掲載しました。
参考にして下さい。

漢字条幅部

第一種 ◇創作（行書または楷書どちらか一枚）

<楷書>

居常以待終

○○書

○○書

居常以待終（常に居りて以て終わりを待つ）

（謝靈運）

<行書>

居常以待終

○○書

○○書

居常以待終（常に居りて以て終わりを待つ）

（謝靈運）

第二種 ◇創作（行書）

漁翁夜傍西巖宿曉汲清湘然楚竹

○○書

漁翁夜傍西巖宿曉汲清湘然楚竹
(柳宗元)
(漁翁夜傍西巖に傍うて宿す。曉に清湘を汲み楚竹を然く。)

かな条幅部

第一種 ◇創作（俳句）

いふたつ戸の口見えて秋の山

○

家ふたつ戸の口見えて秋の山
よみ方家(い遍)ふ(不)た(多)つ(徒)戸の口見えて秋の(乃)山

(鈴木道彦)

かな条幅部

第二種 ◇創作(俳句)

遠く声あわせ行く小鳥かな
よみ方 空(そら)遠く(久)声あわせ(ヰ)行(ゆ)く(久)小鳥か(可)な(奈)

空遠く声あわせ行く小鳥かな
よみ方 空(そら)遠く(久)声あわせ(ヰ)行(ゆ)く(久)小鳥か(可)な(奈)

(炭太祇)

◇創作(和歌)

田の面より山もとさしてゆく驚の近しとみれば遙かにぞとぶ
(伏見處)
よみ方 田(タケ)の面よ(タケ)り(利)山も(利)と(驚)せこてゆく(久)驚の(能)近(驚可)しとみ(見)れ遙は(久)遙(驚)か(可)だ(ノ)ぞ(曾)とぶ(タ)

第三種 ◇創作(俳句)

山伏の火をさす花野かな
(志太野坡)

(志太野坡)

山伏の火をさす花野かな
よみ方 山伏の火を(越)きりこぼ(本)す(巻)花野か(可)な(奈)

◇創作(和歌)

ゆく水の末はさやかにあらはれて川上へくらき月のかげかな
(香川景樹)
ゆく水の末はさやかにあらはれて川上へくらき月のかげかな
よみ方 ゆく(久)水の(能)末(すゑ)は(八)さ(送)やか(可)に(示)あらは(難)れで川上へく(久)ら(難)き(支)月の(難)か(可)け(希)か(可)な(奈)

ゆく水の末はさやかにあらはれて川上へくらき月のかげかな
よみ方 ゆく(久)水の(能)末(すゑ)は(八)さ(送)やか(可)に(示)あらは(難)れで川上へく(久)ら(難)き(支)月の(難)か(可)け(希)か(可)な(奈)

◇楷書

魚戯れて新荷動き、
鳥散じて余花落つ
芳春の酒に対わらずして
青山の郭を還り望む
謝朓の詩の一節を。。。書

◇行書

魚戯れて新荷動き、
鳥散じて余花落つ
芳春の酒に対わらずして
青山の郭を還り望む
謝朓の詩の一節を。。。書

魚戯れて新荷動き、
鳥散じて余花落つ
芳春の酒に対わらずして
青山の郭を還り望む
謝朓の詩の一節を。。。書

◇草書

魚戯れて新荷動き、
鳥散じて余花落つ
芳春の酒にあわず
青山の郭をあまり望む
謝朓の詩の一節を。。。書

第一種 楷書	魚 戯 れて 新 荷 動 き
第二種 楷・行	鳥 散 じて 余 花 落 つ
第三種 楷・行・草 (計3枚)	芳 春 の 酒 に 対 わ ズ し て 青 山 の 郭 を 返 り 望 む 謝 脙 の 詩 の 一 節 を ○○ 書

第一種 楷書	魚 戯 れて 新 荷 動 き
第二種 楷・行	鳥 散 じて 余 花 落 つ
第三種 楷・行・草 (計3枚)	芳 春 の 酒 に 対 わ ズ し て 青 山 の 郭 を 返 り 望 む 謝 脙 の 詩 の 一 節 を ○○ 書

※臨書作品は、6月号46~51ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

※作品締め切りは9月15日(月)です。

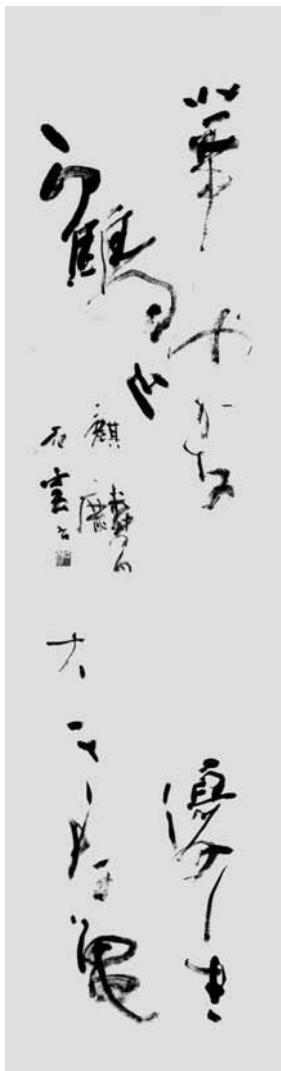
(編集部)

第53回 日本の書展

東京展（令和7年6月12日～22日）

会場 国立新美術館

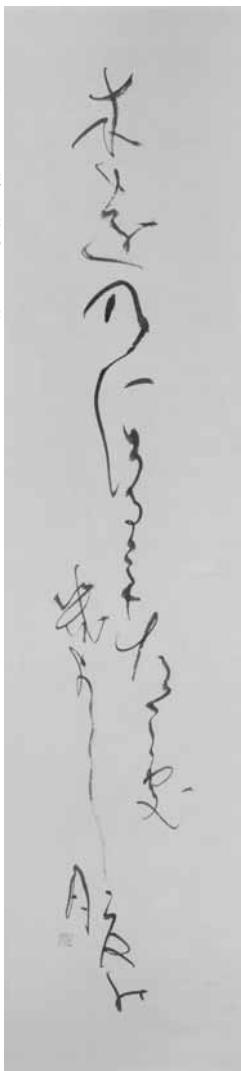
華やかな鶴と優しき大きな電（西村鶴麿）



136×35cm

小竹石雲

木をのぼる水こそ清し夏の月（正木ゆう子）



121×27cm

下谷洋子

辻元大雲



波ごとの雲 地球 空に浮き (宗左近)

53×77cm

祭

小林琴水



120×90cm

成田山書道美術館訪問記

千葉蒼玄

会場風景は下の
コードから見ら
れます。



QRコード



書道芸術院を創設された先生方の作品が多数展示されているとのことでした。下谷先生、小竹先生、山口先生、毎日新聞の桐山さんとともに観覽に伺いました。展示されていた作品のうち、香川峰雲先生をはじめとする創設者の作品、そして6割以上が書道芸術院関係者によるものであり、戦後日本の書芸術の歩みが、ここから始まつたという歴史の重みを深く実感させられる展示でした。毎日展の会期と重なるため、多くの皆さんに鑑賞していただきたい展覧会です。

日本の書における新たな表現のかたち、その出発点を肌で感じることができます。皆さまにもぜひ、詩情豊かな作品群とともに、その時代の息吹を感じていただければと思います。

巻頭言の一部を紹介します。これを企画した谷本真里さんは書道芸術院前衛書部審査会員の安藤陽風さんです。

戦後日本「新しい書」のかたち

近代を迎えて、書が「美術」であるかどうかという議論が折々に持ち上がったことはよく知られている。

太平洋戦争後、書をとりまく環境が大きく変わったことで、その性質も大きな変容を見せた。様式の転換といふ観点からすると、この時代は日本書道史上特筆すべき時代といつていいだろう。

戦後の日本の書は、民主主義や個

を尊重する思想によって人格の表出を求めるようになった。この頃にはすっかり用から離れた毛筆は、一面では伝統芸能化し、書は公募展を主な場とすることになったのである。昭和20年に日本書道美術院が発足、昭和23年には日展に書部門が加わり、毎日書道展が始まった。こうして書は事実上、芸術に位置付けられた。昭和24年には、「新運動」がすさまじい勢いで展開されたという。

芸術としての書の確立は、書そのものの意味を考えることでもあり、その結果としての作品に作家それぞれの姿勢が投影されている。自ずと生じる新旧相互のアンチテーゼは、それぞれの主張を明るみに出し、時に互いに感化を受けながら、書表現に「新しさ」をもたらした。様式が大きく転換した戦後の書は、やがて昭和38年の第十五回毎日書道展の頃に、「漢字」「仮名」「漢字仮名交じり」「篆刻」「刻字」「前衛書」といったおおよその分類に落ち着くところとなる。

この時代の「新しさ」は、時に受け皿の枠組みを超えるものでもあった。比田井南谷の「心線作品第一」、電の「アリエーション」や上田桑鳩の「愛」、日展に陳列を拒否された大澤雅休の「黒獄黒谿」が象徴的大流れる生まれた前衛書は、「新しさ」の代名詞である。この展

を尊重する思想によって人格の表出をして前衛的な表現を取り上げた。文字に抛りながら言葉の意味と造形と切り離す作品、もはや文字を用いて書として提出された作品（文字のもつ原初的な意味合いを形にした作品、それぞれに書が内包する要素たとえば字形や線質、墨色、筆順、言語性などについて子細に再検討が加えられている）。

香川峰雲の篆刻と刻字の作品には、堅固な様式と方法論を持つ篆刻の世界に、積極的に現代性を盛り込もうとした「新しさ」が際立っている。篆刻を用いることを原則とし、文字学的な教養に裏打ちされた篆刻家に連なった峰雲が、「楷書でも行書でもまたカナ文字でもよいではないか、文字を刻したものなら篆刻でよい」と考へたことは、『書道藝術』39と考へたことは、篆刻という分野の外郭を押し広げた。峰雲は、篆刻から派生して刻字の道を切り拓き、寺社仏閣や商店、茶室や書齋などに掲げられた木額とは異なる、書という範疇での新たな分野を確立することとなつた。これが公募展の一分野となつたことで、戦後日本にまたひとつ「新しい書」が誕生し、深化を見せたのである。

現代のことばを多くの人が読めるよう書きたいという欲求は、いつの時代にも当然のものなかもしれない。金子鷗亭の近代詩文書が大衆に広く受け入れられたのもこうした

覧会では、「未知の表現の開拓」として前衛的な表現を取り上げた。文字に抛りながら言葉の意味と造形と切り離す作品、もはや文字を用いて書として提出された作品（文字のもつ原初的な意味合いを形にした作品、それぞれに書が内包する要素たとえば字形や線質、墨色、筆順、言語性などについて子細に再検討が加えられている）。

ことによるのだろう。

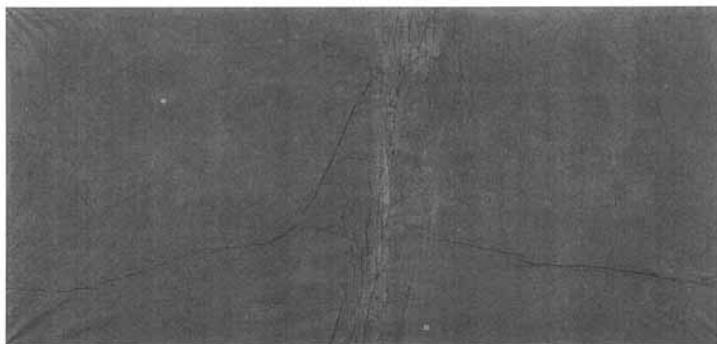
(中略)

前衛書の嚆矢とされる、比田井南谷「心線作品第一・電のヴァリエーション」が発表されてから今年で80年、戦後日本の書を見つめ直す好機である。戦後、さまざまな思想を共有したり、異にすることで離合集散を繰り返した書道団体の活発な動きのなかで、時にはその枠組みを越えながら、書作家の活動はダイナミックに展開された。

この展覧会は、成田山書道美術館の収蔵品を中心に戦後の書の「新しさ」を俯瞰し、再検証しようというものである。こうして見渡してみると、戦後の「新しい書」は百花繚乱の体を示しながら、一方で作家たちは、現代における書とは何かという問題に真摯に向き合おうという姿勢を共有している。



香川峰雲「水」(篆刻)
昭和39年



名久井裕三「風刻」平成25年



おめでとうございます

祝 坂本素雪先生

—第38回毎日書道顕彰(芸術部門)—

(令和7年7月20日)



(公財)書道芸術院理事
書道芸術院展現代詩文書部審査会員

本院理事の坂本素雪先生に本年度の毎日書道顕彰(芸術部門)が贈られました。

先生は昨年7月に、東京・セントラルミュージアム銀座において「坂本素雪こころの書展 線と空間・そして叙情」を開催されました。このたび毎日書道会からその書業を高く評価されました。その評言には、「線の力強さと大胆な余白の美を追求し、躍动感と流れるようなリズムを開拓した。古里下北半島の風土と精神を映し出した書

は作者の人生そのもの」とあります。

玄穹社 選抜展

前期 令和7年8月3日(日)
～8月15日(木)

後期 令和7年8月17日(日)
～8月29日(金)

会場 道の駅親上の里おがつ
雄勝祝伝統産業会館展示スペース

主催 一般社団法人親上の里おがつ
書道研究会玄穹社 千葉 葦玄

問い合わせ 一般社団法人親上の里おがつ 〒986-1335 宮城県石巻市雄勝町下雄勝2-17
☎ 0225-25-6844 0225-61-3422

2025年
第39回 書泉会展

ご高覧いただきたく、ご案内申し上げます
尚、ご芳名は、謹んでご辞退させていただきます

とき 令和7年7月22日(火)～7月27日(日)
11:00～18:00
(最終日は16:00終了)

ところ 東京銀座・鳩居堂画廊 3F・4F

遺墨 下谷 東雲
主宰 下谷 洋子

後援 每日新聞社・(一財)毎日書道会・(公財)書道芸術院
(公社)全日本書道連盟・かな書道作家協会
(社)群馬県書道協会・上毛新聞社

書泉会
〒371-0017 前橋市日吉町3-16-6 下谷方
TEL・FAX 027-231-9440
E-MAIL y-shimoya@jcom.home.ne.jp

扇水会 20周年記念展

「絆を深めよう」

兵庫県立美術館王子分館
原田の森ギャラリー 東館1階展示室

2025年8月5日(火)～8月10日(日)
10時～18時

・扇水書道教室	【後援】	毎日新聞社
・明扇書道教室		書道芸術院
・篠水書道教室		玄遠社
・扇水東住吉北田辺教室		春洋会

主催：扇水会 扇水書道教室 富原扇水 090-5651-7576

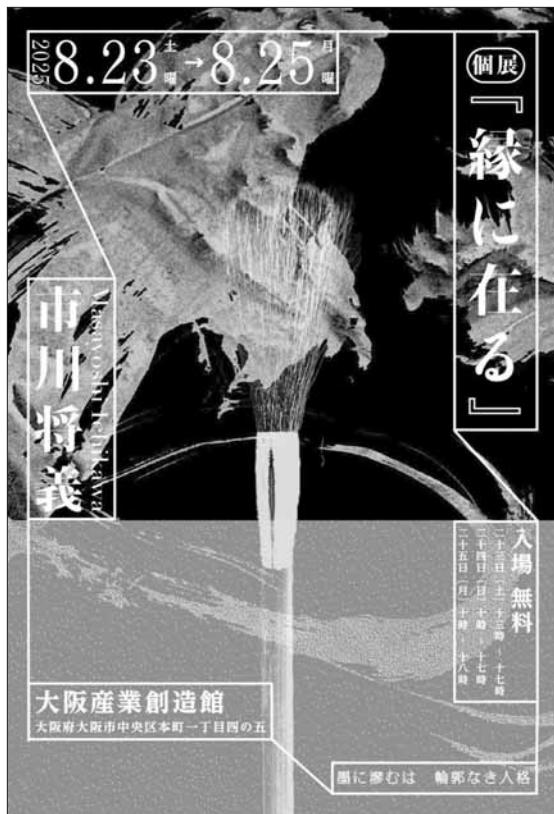
第65回 書径舍展

●会期 令和7年8月1日(金)～3日(日)
午前10時～午後5時
(最終日は午後3時まで)

●会場 富山県高岡文化ホール
〒933-0055
富山県高岡市中川園町13-1
TEL 0766-25-4141

●主催 書径舍 (会長) 大石仙岳

●後援 富山県・高岡市教育委員会・
(公財)書道芸術院・富山県
書道連盟・北日本新聞社



第四回 樹の芽会展

ご高覧頂きたくご案内申し上げます。

記

日時 令和7年8月22日(金)～24日(日)

午前10時～午後5時まで

(最終日は4時まで)

会場 大崎市古川市民ギャラリー緒絶の館

大崎市古川三日町1丁目1番1号

Tel 0229-21-1466

後援 (公益財団法人) 書道芸術院

宮城野書人会

大崎市古川文化協会

大崎タイムス社

樹の芽会代表 鉢野遊山 Tel 0229-23-8609

「全国の教室から」と題して、会員の皆様の
書道教室を紹介する企画を始めました。
掲載を希望される方は、事務所までご連絡
下さい。

全国の教室から

椿森書道クラブ (千葉)

主宰：現代詩文書部審査会員

森 舞扇



昭和48年に種谷扇舟先生の依頼により、千葉市椿森公民館で市民講座を開くことになりました。10回の講義を37名が受けました。その後、20名が残り書道クラブとして出発することになりました。古典の研究も加え、楷書の五法を指導、点の打ち方、一本の線を引く時のリズムはもちろん、心を込めて書くことを指導しました。

『書道芸術』の競書に出品して今年で52年目、100人以上の方が師範に合格してきました。皆、楽しんで勉強する姿が素晴らしいです。



第76回 每日書道展

主催：毎日書道会・毎日新聞社

●東京展

○国立新美術館

※毎週火曜は休館・水曜は午後1時開場

前期(Ⅰ) 7月9日(水)～7月14日(月)

前期(Ⅱ) 7月16日(水)～7月21日(月)

後期(Ⅰ) 7月23日(水)～7月28日(月)

後期(Ⅱ) 7月30日(水)～8月3日(日)

○東京都美術館＝7月18日(金)～7月24日(木)

※22日(火)は休館日

●関西展

京都市京セラ美術館

みやこめっせ第2展示場

日図デザイン博物館

8月13日(水)～8月17日(日)

●東海展

愛知県美術館ギャラリー

8月19日(火)～8月24日(日)

●中国展

広島県立美術館

8月19日(火)～8月24日(日)

●四国展

愛媛県美術館

8月20日(水)～8月24日(日)

●東北仙台展

せんだいメディアテーク

9月19日(金)～9月24日(水)

●北海道展

札幌市民ギャラリー

大丸藤井セントラル スカイホール

9月24日(水)～9月28日(日)

●東北山形展

山形美術館

10月15日(水)～10月19日(日)

●九州展

大分県立美術館

10月28日(火)～11月2日(日)

書道芸術院 第76回毎日書道展出品者懇親会

第76回毎日書道展出品者懇親会を下記のとおり開催いたします。

万障おくり合わせのうえ多数ご出席くださいますようご案内いたします。

日 時 令和7年7月20日(日) 午後4時開宴

会 場 芝パークホテル

〒105-0011 東京都港区芝公園1-5-10 (TEL 03-3433-4141)

会 費 12,000円 (当日の参加申し込みはできません) ※U23は半額

申込方法 書道芸術院事務局にご連絡ください。

申込〆切=令和7年7月11日(金)厳守

予告

2025・8月号(772)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(9月15日締切)

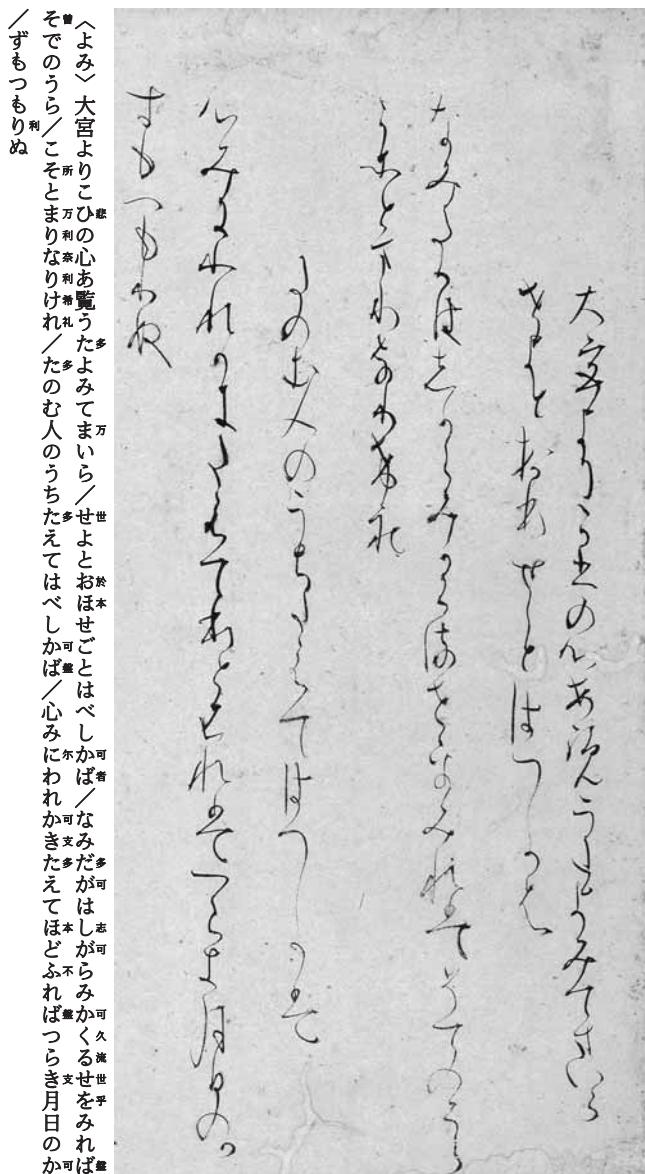
古筆鑑賞

257

古典鑑賞

483

針切 (伝 藤原行成筆) ②



(掲載図版・70%に縮小)

張遷碑 (後漢・186年) ②



(掲載図版・50%に縮小)

惟中平三年歲／在攝提二月震／節
紀日上旬陽

特別昇段級試験

一、しめぎり日 9月15日(月)

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

漢字
かな
漢字条幅
かな条幅
ペン字
かな、漢字条幅の三種は、春季募集となります。

二、応募資格

一人で幾つの部にも応募できる。

第一種

現段級が特級～10級、新規

第二種

(4～10級の方は受験できない)

第三種

現段級が準師範～秀級
(優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧
字体どちらも可)

*漢字かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、6月号の写真掲載の中から「指定文字数」を臨書。

漢字部 半紙＝たて長に使用

第一種(1枚) 楷臨書 高真碑(掲載部分から5文字を臨書)

文字を臨書

第二種(楷・行 計2枚)

楷 創作 密竹使徑 迷(謝靈運)

(密竹使徑迷)

(漁翁夜廬を傍うて宿す 晚に

清湘を汲み楚竹をたんく)

行 臨書 雁塔聖教序(掲載部分から12文字を臨書)

(衆人新術を忘れ妻子故郷に感う)

第三種(楷・行・草計3枚)

楷 臨書 集字聖教序(掲載部分から6文字を臨書)

(柳宗元)

行 創作 來人忘新術

(去子惑故蹊(謝靈運))

草 臨書 十七帖

(掲載部分から6文字を臨書)

かな部 半紙＝たて長に使用

料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け也可。

かな部創作・臨書はともに落款は印のみ可。

かな・漢字の変更自由。

第一種(楷・行・草計3枚)

創作 家ふたつ戸の口見えて秋の山

(鈴木道彦)

第二種(楷・行・草計3枚)

創作 田の面より山もさしてゆく聲の

(炭太祐)

創作 空遠く声あわせ行く小鳥かな

(伏見院)

第三種(楷・行・草計3枚)

創作 関戸本古今集

(半紙1枚に全てを臨書)

創作 山伏の火をきりこぼす花野かな

(志太野坡)

創作 ゆく水の末はさやかにあらはれて

(川上・くらき月のかげかな)

創作 (香川景樹)

第一種(楷・行・草計3枚)

創作 魚戯れて新荷動き

(鳥散じて余花落つ)

創作 青山の郭を連れ望む

(芳春の酒に対わずして)

第一種(楷書)(1枚)

創作 居常以待終

(謝靈運)

第一種(楷・行・草計2枚)

楷臨書 頽勤礼碑(掲載部分から14文字を臨書)

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

創作は〇〇書、臨書は〇〇臨と書く。

ただし、かな部・かな条幅部の創作。

臨書いすれも印のみ可。

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

七、応募手続

出品品はバーコード出品券を使用

し、9月号(73号)の段級を記入

(昇試出品券を貼付欄に貼る)。

一種は作品の右下に貼る。二種・

三種は1番上のみ、作品の右下

に貼る。

作品2枚以上ある時は、右上を

ホチキスまたはのりでとめる。

団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

個人で受験希望の方は、はがきで

申し込む。

受験申込み締切は8月21日(木)

・申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7

東神田フラザビル三階
公益財団法人書道芸術院

書道芸術編集部特別昇級試験係
応募書類は9月1日以後に整理
発送。送付された応募書類に必
要事項記入の上、作品に添え込
ます。

5

競書出品規定

●規定部(自分の段・級で出品)

*規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

*特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

*落款(印のみも可)を入れる。
※半紙は縦使用に限る。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 1、締切日必着厳守
- 2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
- 3、月別出品券のコピーは不可
- 4、(一)初めて出品のときは「10級」と書く
(二)「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	漢字研究	部門用紙	かな研究	漢字研究	部門用紙	漢字条幅	かな条幅	漢字条幅	漢字	部門
10 ～ 級	師 ～ 範	10 ～ 級	秀級以下	秀級以下	秀級以下	初段以上	半紙	半紙	初段以上	段級位

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

部門	漢字研究	部門用紙	かな研究	漢字研究	部門用紙	漢字条幅	かな条幅	漢字条幅	漢字	部門
半紙	半紙	半紙	歌、全文も可	文字数自由	歌、1首以上を書	師 ～ 範	秀級以下	初段以上	初段以上	段級位

- ・段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…
- ・段位は漢数字 初、二、三…
- ・掲載部分以外の箇所は不可。
- ・掲載部分の箇所は不可。
- ・かな研究部門は料紙使用可。
- ・料紙貼りつけ可。

●自由部(段、級によらないもの)

部門	実用書	前衛書	部門
左記	半紙	半紙	用紙

▲実用書部門・出品規定▼

○用紙 半紙横1/2(24×16.5cm)、B5コピーユ用紙(26×18.1cm)も可。

○課題 掲載語句を書く。
○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

- ・大作または小品のどちらかに1点出品する。
- ・詳細は出品票の掲載ページを参考のこと。

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願ひいたします。(土日・祝日は休み)

令和七年六月二十五日印刷

令和七年七月一日発行

送 料

1か月の購読部数が

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は
送料免除

西 101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は